

【令和元年度第3回下松市地域公共交通活性化協議会（書面協議・報告）の意見等及びその回答】

表 題	1.コミュニティバス「米泉号」の運行実績について①
意見等	<p>「米泉号」は、米川地区の区域運行と、米川小学校前～花岡地区間の定時定路線の組み合わせであるが、補助金上では他地域の同様の事例と同じく「区域」の整理としています。</p> <p>区域型については、<u>計画運行回数に対する実績運行回数の運行割合が30%に満たない場合は、交付申請対象外</u>となりますが、<u>予約運行がない便については、実績として数えず、申請の対象とならない</u>のですが、資料ではその実績が分かるデータがないので、半年間の数字をまた次回の協議会でよいのでお示しいただきたい。</p>
回答等	<p>※計画上は、年1,460回運行であり、その30%は438回となる。</p> <p>3月末までの<u>半年間</u>での予約のあった便の運行回数は<u>220回</u>であり、現状では補助金対象となる回数に対してギリギリのラインで超えている。</p> <p>なお、各月の実績はR1年10月:52回、11月:40回、12月:30回、R2年1月:38回、2月:35回、3月:25回である。</p> <p>2月までは安定して予約利用があったが、3月に利用数が低下した原因は、米川公民館の貸館中止も含め、新型コロナウイルス感染防止のために不要不急の外出を自粛したことが影響している。</p> <p>(例:今までであれば、多くの方が2便で花岡に出かけ、4～6便に分散して帰宅されていたが、3月は人数も減り、またすぐに4便で戻ってくるなどとなっているため、予約便の運行回数が減っている。)</p>

表 題	2.コミュニティバス「米泉号」の運行実績について②
意見等	<p>資料1の11ページによると、予約運行エリアの利用が、北エリアと中央・東エリアで大きな差があるが、その原因は分析されていますか。</p>
回答等	<p>原因については、北エリアが今までバス路線がなく、バスを利用しない生活スタイルを確立していた地域であったことが、引き続き運行開始後にも大きく影響している。</p> <p>北エリアに住まれている方々には、米泉号の運行開始前から積極的に利用していただくように啓発活動を行っております。引き続き、北エリアの方々への利用啓発に努めることで、解消に努めていきたいと考えている。</p>

表 題	3.コミュニティバス「米泉号」の運行実績について③
意見等	引き続き、利用促進により、今後利用を増やしていくことを期待しています。
回答等	一人でも多くの方に利用していただけるように、改善を図りながら、周知・利用促進に努めてまいります。

表 題	4. コミュニティバス「米泉号」の運行状況について
意見等	多くの方々が利用している現状が分かり、免許証返納者や米川地域居住者にとって欠かせない交通機関として、今後もきめ細やかなサービスを継続して行ってほしいです。
回答等	米泉号の運行方式は、本市の交通弱者対策の一つのモデル施策となることから、今後も利用者や識者等の意見を反映しながら、さらに利用していただけるように改善していきたいと考えています。

表 題	5.久保地区での新たな移動手段確保等を含めた検討
意見等	アンケート調査で「東陽を除く」とされている理由を教えてください。 また、アンケート調査で50歳以上を対象としている理由を教えてください。個人的には、30～40代の子育て世代とされる年代の人たちへの公共交通に対する意識づけも意識していただきたいと考えています。
回答等	東陽地区は、昨年10月にダイヤ改正及び経路変更を行った防長交通の路線バスにより、久保地区内の他地域と比較すると（公共交通での）移動手段が手厚くなったこと、また、久保地区での移動手段を検討している福祉協議体に、東陽地区が含まれていないことから、この度のアンケート調査予定地区から除外している。 70歳代になって利用されると想定した際、近い将来の利用者である60歳代だけでなく、長く利用していただくためにも50歳代の意見も加味して検討すべきと考えた結果、50歳以上とした。 なお、30～40代の方々は、通勤も含めて自家用車利用が主であり、公共交通機関を含め、現状では利用が期待できないことから、調査対象から除外している。これらの若い世代への公共交通に対する意識づけについては、別段で検討していくこととしたい。

表 題	6.笠戸島地区等における交通機関の確保
意見等	商業施設から遠方となる笠戸島地区につき、『事業③市内循環線』の検討を前向きに進めていけたらと思います。
回答等	<p>笠戸島地区については、どのような移動手段がふさわしいのか、今後地元と一緒に協力を進めていくこととしています。</p> <p>循環線の導入は、笠戸島地区を想定しているわけではなく、また、まずは交通弱者対策が早急に必要な地区（笠戸島や久保地区など）の手立てを行っていく必要があります。循環線の検討については、必要に応じて協議会でも審議していくことを考えておりますので、委員の皆さまには、引き続き、ご協力をお願いいたします。</p>

以上。